

エクスポートとインポート

パラメータ

パラメータ	値	説明
BUFFER	n	従来型パスにおいて、行フェッチに使用されるバッファサイズ
CONSTRAINTS	y/n	制約をエクスポートする場合は Y (デフォルト : Y)
CONSISTENT	y/n	読取一貫性を保証したトランザクション内でエクスポートする場合は=Y (デフォルト : N)
COMPRESS	y/n	1つのエクステンツにまとめる場合は=Y (デフォルト : Y)
DIRECT	y/n	ダイレクトパスエクスポートで実行する場合は=Y (デフォルト : N) ※ 評価バッファを経由しないため高速にデータを抽出できる。
FILE	s	エクスポートするファイル名 (デフォルト : expdat.dmp)
GRANTS	y/n	権限もエクスポートするときは「=Y」 (デフォルト : Y)
INCTYPE	s	<ul style="list-style-type: none"> ・全エクスポート : COMPLETE ・増分エクスポート : INCREMENTAL ・累積エクスポート : CUMULATIVE
LOG	s	ログ出力する場合はファイル名を指定する
INDEXES	y/n	索引をエクスポートするか？ (デフォルト : Y)
PARFILE	s	パラメータをテキストファイルに記述してそのファイル名を指定することでパラメータをセットできる。 例) exp1.txt というテキストファイルにパラメータを記述しておき、PARFILE=exp1.txt で指定する
ROWS	y/n	表のデータ行をエクスポートするか？ (デフォルト : Y)
TRIGGERS	y/n	トリガーをエクスポートする場合は=Y (デフォルト : Y)
USERID	s	EXPORT を実行するユーザ ID とパスワード
TRANSPORT_TABLESPACE	y/n	トランスポータブル表領域として実行する場合は=Y (デフォルト : N)
QUERY	S	表モードで行のサブセットを EXPORT するための WHERE 句と ORDER BY 句の指定

FULL	★	y/n	全データベースモードを指定する場合： FULL=Y
OWNER	★	s	ユーザモードを指定する場合： OWNER=ユーザ名
TABLES	★	s	表モードを指定する場合： TABLES=エクスポートする表名[,...]

EXPORT 文の使用例

(例) データベース db01 内の全てのオブジェクトを「c:¥fullexp.dmp」ファイルにエクスポートする

```
C:¥> exp  usr02/usr02@db01  file=c:¥fullexp.dmp  full=y
```

(例) db01 内の usr02 スキーマ内のオブジェクトを「c:¥usrexexp.dmp」ファイルにエクスポートする

```
C:¥>exp usr02/usr02@db01 file=c:¥usrexexp.dmp owner=usr02
```

(例) db01 内の usr02 スキーマ内の TEST_TBL 表と TEST_TBL2 表を「c:¥tableexp.dmp」ファイルにエクスポートする

```
C:¥> exp  usr02/usr02@db01          file=c:¥tableexp.dmp
      rows=y  tables=( TEST_TBL ,  TEST_TBL2 )
```

IMPORT 文の使用例

(例) ダンプファイル「c:¥ora.dmp」内のユーザ「usr02」のオブジェクト全てを usr01 スキーマにインポートする (オブジェクト作成時のエラーを無視する)

```
C:¥>imp  usr01/pass@db01      file=c:¥ora.dmp  fromuser=usr02
                                touser=usr01  ignore=y
```

(例) ダンプファイル「c:¥ora.dmp」内のユーザ「usr02」の表「TABLE1」「TABLE2」を usr01 スキーマにインポートする

```
C:¥>imp  usr01/pass@db01          file=c:¥ora.dmp  fromuser=usr02
                                touser=usr01  tables=( TABLE1 ,  TABLE2 )
```

(例) ダンプファイル「c:¥ora.dmp」をインポートする。

各種パラメータは「c:¥par.txt」から読み込む。

※ par.txt ファイル (パラメータファイル) にはパラメータを箇条書きしておく。

```
C:¥>imp usr01/usr01@db01 file=c:¥ora.dmp parfile=c:¥par.txt
```

☆パラメータファイルの記述例 (par.txt)

```
fromuser=usr02
```

```
touser=usr01
```

```
tables=(TABLE1, TABLE2)
```